

令和7年度（2025年度）

金沢大学法科大学院

入学試験問題

民 法

C日程入試

（注意）

1. 問題冊子（表紙を含む）は2枚です。
2. 問題冊子は指示があるまで開かないで下さい。
3. 問題冊子と下書き用紙は持ち帰って下さい。
4. 解答は、鉛筆、シャープペンシル、ペン、ボールペンのいずれで記入しても構いません。
5. 解答にあたっては、どの問題から解答しても構いません。ただし、どの問題についての解答であるのかを答案中に明示してください。

## 令和7年度（2025年度）金沢大学法科大学院入学試験問題

試験科目	民	法
------	---	---

以下の問題について解答しなさい。

### 問題1（10点）

「除斥期間」について、解答用紙5行程度で説明しなさい。

### 問題2（15点）

次の〔事実〕を読んで、後記の〔問題〕に答えなさい。

〔事実〕

1. Aは、更地である甲土地を所有していた。
2. Yは、建物を所有することを目的として、Aとの間で甲土地について賃貸借契約を締結し、その数か月後には甲土地上に乙建物が建築された。Yは、建物の完成の際に、乙建物についてY名義で所有権の保存の登記をした。
3. Aは、事業資金を調達するために、Xから5000万円の融資を受けることになった（金銭消費貸借契約）。その際、AX間では、XのAに対する貸金債権を担保するために、甲土地につき代物弁済の予約が合意され、将来の所有権移転請求権を保全するために仮登記が行われた（仮登記担保契約）。
4. その後、Aが融資金を返済できなくなったので、Xは、予約完結権を行使し、甲土地の所有権移転に必要な一連の手続をすべて完了したが、甲土地の所有権移転登記は未了であった。

〔問題〕

上記〔事実〕1から4までを前提として、Xは、甲土地の所有権を根拠にYに対して乙建物の収去及び甲土地の明渡しを請求すること（請求①）、請求①に代えて、甲土地の賃貸人としてYに対して地代を請求すること（請求②）を考えている。これら2つの請求がそれぞれ認められるかについて論じなさい。

以 上